

# 令和7年度学校評価表

品川区立戸越台中学校

校長

堀井 昭宏

戸越台中学校校区教育協働委員会

委員長

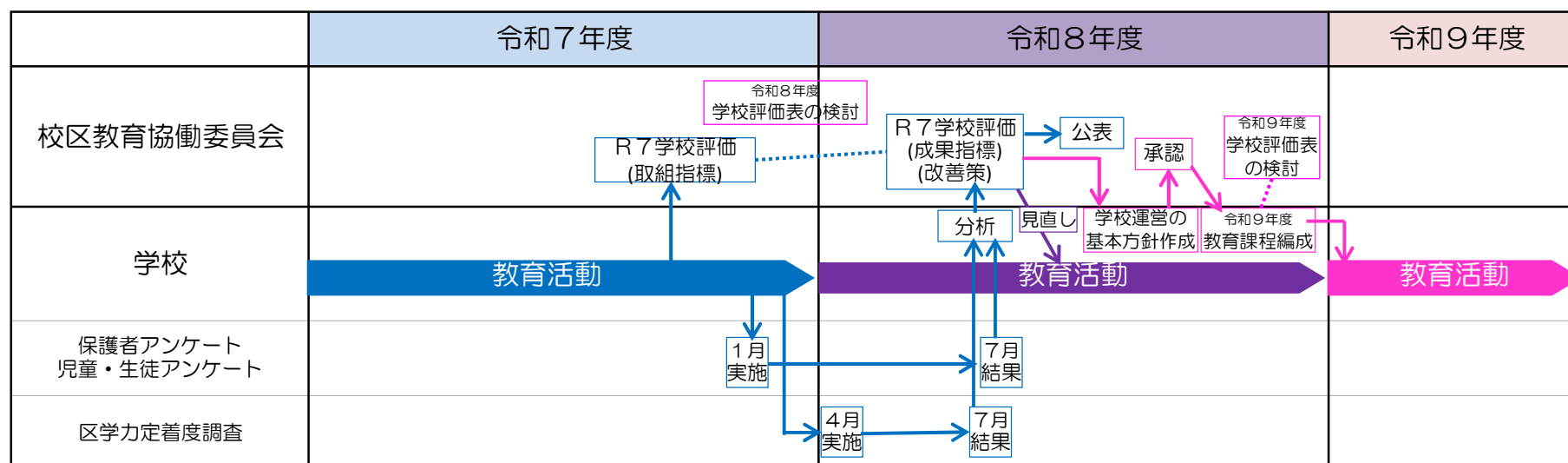
上野目 浩一

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

| 重点目標 |                                                             | 「すすんで学ぶ生徒」を目指し、「基礎学力の定着」と「個別最適な学びの実現」に努める。                                                          |    |                                                                                                                                  |
|------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | 最上段:成果指標                                                    | 最上段:成果指標の達成状況の説明                                                                                    | 評価 | 今後の課題と改善策                                                                                                                        |
|      | 2段目以降:取組指標                                                  | 2段目以降:取組指標の達成状況の説明                                                                                  |    |                                                                                                                                  |
| ①    | 「学校の授業は分かりやすい」の生徒による肯定的評価95%以上                              | 「学校の授業は分かりやすい」の生徒による肯定的評価は <b>96.2%</b> (29.3+66.9)であり、目標値に達し前年度を上回った。                              | A  | ○生徒が主体的に学び、「楽しい」「分かる」「身についた」と実感できる授業づくりを引き続き目指していく取り組みを実行していく。<br><br>○ウェルビーイング推進校として、校内研究を計画的に実施し、更なる教員の指導力の向上を目指していく。          |
|      | 授業の中で「主体的に参加できる場面がある」と全員が実感できる指導方法を目指す。                     | 教師主導ではなく、生徒が主体的に学べる授業を目指し、各授業において対話を重視した取り組みを増やすなどの共通認識を確認した。                                       | B  |                                                                                                                                  |
|      | 授業の中で「身に付いたことがある」と全員が実感できる指導方法を目指す。                         | 誰一人取り残さない授業を目指し、「基礎学力の定着」と「個別最適な学び」に関して、校内研修を計画的に行った。                                               | A  |                                                                                                                                  |
| ②    | 「ICT機器が、自分の習熟度に合った学習やみんなと協力しておこなう学習に役立っている」の生徒による肯定的評価90%以上 | 「ICT機器が、自分の習熟度に合った学習やみんなと協力しておこなう学習に役立っている」の生徒による肯定的評価は <b>90.4%</b> (36.6+53.8)であり、目標値に達し前年度を上回った。 | A  | ○ICT機器の使用にあたり、全授業で使用しながら、授業を行うことができた。<br><br>○「個別最適な学習」や「協働的な学習」につながる効果的な使用に関して、共通認識を確認したのみになってしまい、その活用に対する詳細な効果を検証するまでには至らなかった。 |
|      | 「個別最適な学習」を実現するために、タブレットや電子黒板等のICT機器を授業で活用する場面を設定する。         | すべての授業において、ICT機器を活用し、個に応じた取り組みのある授業の工夫をしていくよう共通認識を確認した。                                             | B  |                                                                                                                                  |
|      | 「協働的な学習」を実現するために、タブレットや電子黒板等のICT機器を授業で活用する場面を設定する。          | すべての授業において、ICT機器を活用し、協働的な学習につながるような取り組みのある授業の工夫をしていくよう共通認識を確認した。                                    | B  |                                                                                                                                  |
| ③    | 「先生は分かりやすい授業」を行うために指導方法の工夫・改善をしている」の生徒による肯定的評価90%以上         | 「先生は分かりやすい授業」を行うために指導方法の工夫・改善をしている」の生徒による肯定的評価は <b>93.4%</b> (43.2+50.2)であり、目標値に達し前年度を上回った。         | A  | ○学力調査の結果を分析し、すべての生徒が楽しく「わかる・できる」ような授業を目指していくために、各教員が行った指導方法の工夫について、教科部会や校内研修会などで、共有していく。                                         |
|      | 学力調査の結果を分析し、指導方法の工夫・改善と基礎学力の定着に生かす。                         | ほとんどの教員が学力調査の結果を、指導方法工夫改善に活かすことができた。                                                                | B  |                                                                                                                                  |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

| 重点目標 |                                                            | 「心豊かな生徒」を目指し、「他者を理解する気持ち」と「集団や地域との望ましい関わり方」を育てる。                                                    |    |                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | 最上段: 成果指標                                                  | 最上段: 成果指標の達成状況の説明                                                                                   | 評価 | 今後の課題と改善策                                                                                                                                                                        |
|      | 2段目以降: 取組指標                                                | 2段目以降: 取組指標の達成状況の説明                                                                                 |    |                                                                                                                                                                                  |
| ①    | 「毎日の学校生活や学校行事は充実していると感じる」の生徒による肯定的評価90%以上                  | 「毎日の学校生活や学校行事は充実していると感じる」の生徒による肯定的評価は <b>96.8%</b> (50.8+46.0)であり、前年度に続き、目標値を大きく上回った。               | A  | ○行事の企画段階から生徒が関わる部分を設定し、生徒主体の行事運営が実施していく。<br>○日々の授業や見守りにおいて、教員は、分かる授業、いじめの防止と発見、進路の自己決定力育成を意識して取り組む。                                                                              |
|      | ・一人一人の生徒が、安全・安心で楽しい学校生活を送れることを意識しながら、学習指導、生活指導、進路指導に取り組む。  | 休み時間の見守りを実施しながら、生徒の状況を把握することができた。また、誰一人取り残さない授業、いじめ防止に向けた取り組みや自ら進路を決定する力の育成に取り組んだ。                  | A  |                                                                                                                                                                                  |
| ②    | 「学校や地域の活動で、自分の力も役立つ場面があったと感じる」の生徒による肯定的評価90%以上             | 「学校や地域の活動で、自分の力も役立つ場面があったと感じる」の生徒による肯定的評価は <b>77.0%</b> (31.6+45.4)で、前年度並みで、目標値を大きく下回った。            | B  | ○地域町会が行っているボランティアへの参加など、積極的に関わられるような呼びかけを行い、地域への貢献を実感できるような場を設定していく。<br>○生徒会活動において、生徒主体の発想による取組計画や全生徒がその実感を感じられるような場を増やしていく。<br>○特色ある活動としての特養老人ホームや保育園等と、持続可能な規模や形態による連携を継続していく。 |
|      | ・生徒会や各学校行事の実行委員・係の活動を通して、生徒が主体的に取り組む機会を計画的に設定する。           | 運動会や学習成果発表会などの学校行事では、実行委員となる生徒が主体的に取り組む機会を設定できた。                                                    | A  |                                                                                                                                                                                  |
|      | ・特別養護老人ホーム・保育園・小学校・地域と連携したボランティア活動を推進する。                   | 七夕での交流、吹奏楽部の演奏など、最低限の交流は持つことができた。持続可能な形態での連携を続けていきたい。                                               | B  |                                                                                                                                                                                  |
| ③    | 「SNSなど情報機器を活用するための正しい知識やルールが身につき、適切に使用することができる」の肯定的評価90%以上 | 「SNSなど情報機器を活用するための正しい知識やルールが身につき、適切に使用することができる」の肯定的評価は <b>94.0%</b> (51.8+42.2)であり、前年度に続き、目標値を上回った。 | A  | ○SNSに関するトラブルは減少したものの、完全に無くなることはないため、正しい活用に向けたSNS利用のルールやスキルの定着を目指し、継続的な指導を行っていく。<br>○SNSだけではなく、校則の見直しを継続していくことで、生徒への規範意識やTPOにおけるマナーの向上につながりで行きたい。                                 |
|      | ・セーフティ教室等で外部講師による講演の機会を活用し、SNSを正しく使うスキルや利用のリスクを生徒に十分理解させる。 | 授業等での取り組みは実施できたが、授業のみならず、普段からの呼びかけや保護者への啓蒙を続けていきたい。                                                 | A  |                                                                                                                                                                                  |
|      | ・生徒による「戸越台SNSルール」の更新と、家庭におけるSNSルール作りを推進する。                 | SNSに対する取り組みのみならず、実行員会を立ち上げ、校則の見直し(「戸越台スタンダード」の作成)を行うことができた。                                         | A  |                                                                                                                                                                                  |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

| 重点目標 |                                                            | 「たくましい生徒」を目指し、「心と体を鍛える」ことを大切にして「自己実現にむけて努力する土台」を作り上げる。                                           |    |                                                                                                                                                                            |
|------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | 最上段:成果指標                                                   | 最上段:成果指標の達成状況の説明                                                                                 | 評価 | 今後の課題と改善策                                                                                                                                                                  |
|      | 2段目以降:取組指標                                                 | 2段目以降:取組指標の達成状況の説明                                                                               |    |                                                                                                                                                                            |
| ①    | 「食事や睡眠、衛生健康管理などの基本的生活習慣は身につけている」の生徒による肯定的評価90%以上           | 「食事や睡眠、衛生健康管理などの基本的生活習慣は身につけている」の生徒による肯定的評価は <b>87.6%</b> (46.7+41.0)で、前年度を下回り、目標値に達することができなかった。 | B  | ○多くの生徒は基本的生活習慣が身につけていると思われるが、生徒による肯定的評価が前年度よりも低かった。学校生活の中での新たな取り組みを実施していく。                                                                                                 |
|      | ・自らの健康管理を意識させ、社会に出て通用するマナーを身に付けさせるために、基本的生活習慣の定着に向けた指導を行う。 | 多くの生徒は基本的生活習慣が身につく衛生健康管理はできている生徒が多いが、全生徒が意識できるような取り組みをしていく必要がある。                                 | B  |                                                                                                                                                                            |
| ②    | 「保健体育の授業、運動会などの学校行事や部活動等で、意欲的に運動することができた」の生徒による肯定的評価90%以上  | 「保健体育の授業、運動会などの学校行事や部活動等で、意欲的に運動することができた」の生徒による肯定的評価は <b>91.1%</b> (54.9+36.2)で、前年度並みで目標値に達した。   | A  | ○運動能力に関する調査分析を活かして、不足する部分を補う取り組みを、計画的に行っていく。また、授業や行事では、生徒が楽しいと思ったり、自分にとって良い効果があると感じたりすることができるように、その内容や取り組み方について継続して、工夫していく。<br>○部活動でも、技術指導はもちろん、楽しいと感じられるような主体的な活動を工夫していく。 |
|      | ・保健体育の授業や体育的行事を通して、生徒に運動の楽しさや効果を実感させる。                     | 運動会の取組や普段の保健体育の授業、放課後の部活動などで、部活動指導員や外部委託コーチと協力して、活動させようという工夫や努力が見られる。                            | B  |                                                                                                                                                                            |
|      | ・体力、運動能力に関する調査を教員が分析し、生徒の課題解決に向けた体力向上の取組を推進する。             | 全国体力、運動習慣等調査などを活用・分析して課題を把握し、授業の中で意識的に課題解決に向けた取り組みを行った。                                          | A  |                                                                                                                                                                            |
| ③    | 「学校は落ち着いて生活できる場所であると感じる」の生徒による肯定的評価90%以上                   | 「学校は落ち着いて生活できる場所であると感じる」の生徒による肯定的評価は <b>88.0%</b> (39.0+49.0)で、前年度並みで目標値に達することができなかった。           | B  | ○悩みを相談しやすくする取り組みは効果がみられたが、教室が安心できるような環境にすることが必要である。<br>○生徒の状況により、積極的に外部機関との連携を図り、効果的な対応を行っていく。                                                                             |
|      | ・スクールカウンセラーによる第7学年の全員面接を行い、悩みを抱える生徒の早期発見、早期対応につなげる。        | 第7学年の全員面接を実施したことで、スクールカウンセラーに相談する生徒が増えた。また、絆ノートやデイクンなど多様な取組を併用していきながら、早期発見につながった。                | A  |                                                                                                                                                                            |
|      | ・配慮を要する生徒について、校内で迅速に情報共有し、必要により外部機関と連携した対応を行っていく。          | 必要な情報の迅速な共有や外部機関との必要な連携はできている。                                                                   | A  |                                                                                                                                                                            |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

| 重点目標 |                                                                | 「一人一人を理解する手段」と「相談できる窓口」を充実し、いじめの「未然防止・早期発見・早期対応」を目指す。                                            |    |                                                                 |
|------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | 最上段：成果指標                                                       | 最上段：成果指標の達成状況の説明                                                                                 | 評価 | 今後の課題と改善策                                                       |
|      | 2段目以降：取組指標                                                     | 2段目以降：取組指標の達成状況の説明                                                                               |    |                                                                 |
| ①    | 「学校はいじめの未然防止や早期発見に取り組んでいると感じている」の生徒による肯定的評価90%以上               | 「学校はいじめの未然防止や早期発見に取り組んでいると感じている」の生徒による肯定的評価は <b>94.5%</b> (51.0+43.4)で、前年度に続き、目標値を上回った。          | A  | ○タブレットを活用したダイケンや絆ノートなどの活用による毎日のいじめ早期発見の実施を継続していく。               |
|      | ・生徒の小さな心の変化やネット上でのいじめ等に教員が気付けるよう、オンラインデジタルアンケートを実施、活用していく。     | タブレットを活用したダイケンによる毎日のいじめ早期発見について、前年度は実施にばらつきがあったが、全クラス確実に実施することができた。                              | A  | ○いじめに関する授業を計画的に実施するとともに、ウェルビーイングカードを利用した取り組みを中心に学級風土の向上を目指していく。 |
|      | ・「いじめ」の定義を大人も子供も共通理解し、「いじめは絶対にいけない」という意識を浸透させる取り組みを行っていく。      | いじめ対策委員会を中心として、いじめの定義について教員の共通認識を浸透させることができた。生徒に向けては、朝礼での生活指導主任の講話や市民科で実施できた。                    | A  |                                                                 |
| ②    | 「心配や悩みがあるとき相談できる人(友人、先生、カウンセラー、他)が学校内にいる」の生徒による肯定的評価85%以上      | 「心配や悩みがあるとき相談できる人(友人、先生、カウンセラー、他)が学校内にいる」の生徒による肯定的評価は <b>86.8%</b> (45.6+41.2)で、前年度並みに目標値を上回った。  | A  | ○7年生の、スクールカウンセラーとの全員面接を早期に行い、相談しやすい環境を引き続き作っていく。                |
|      | ・生徒が悩みごとを相談しやすいように、スクールカウンセラーや教職員による相談窓口を拡充し、周知していく。           | SCを3名配置できたことにより利用率も増加し、養護教諭を含めた教員にも悩みを相談するなど、生徒が話しやすい環境を拡充することができた。                              | A  | ○カウンセラーに限らず、話しやすい教職員に相談できるようにしていき、肯定評価を100%に近づけていきたい。           |
| ③    | 「学習や生活で理解や支援が必要な場面で、学校はすぐに対応していると感じる」の生徒による肯定的評価90%以上          | 「学習や生活で理解や支援が必要な場面で、学校はすぐに対応していると感じる」の生徒による肯定的評価は <b>95.1%</b> (48.1+47.0)で、前年度よりも5%上昇し、目標値に達した。 | A  | ○学習や生活の支援が必要であるという情報や申し出を全体で共有し、引き続き、生徒に必要な対応につなげていく。           |
|      | ・特別支援教室(台中ルーム)や巡回心理士と連携し、特性のある生徒やその保護者と困り感を共有しながら校内での支援を行っていく。 | 気になる生徒や困り感がありそうな生徒については、巡回心理士と連携して、専門家からの意見を参考に対応を考えている。                                         | B  | ○巡回心理士等の専門家からのアドバイスを受け、適切な支援をおこなっていく。                           |
|      | ・支援が必要な生徒について、校内委員会や生活指導部会で情報共有を行い、必要に応じて教育総合支援センター等につなげていく。   | 特別支援教室(台中ルーム)での支援が必要であるかの判断や、教室において支援が必要な生徒について情報共有を行っている。                                       | A  | ○生徒たちの間にも、多様性を受入れて特別な支援に対する理解と協力の輪を広げていきたい。                     |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

## 評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

| 重点目標 |                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流を活かしたキャリア教育の充実を図る。</li> <li>・「開かれた学校」「信頼される学校」の実現を目指す。</li> </ul> |    |                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | 最上段: 成果指標                                                      | 最上段: 成果指標の達成状況の説明                                                                                               | 評価 | 今後の課題と改善策                                                              |
|      | 2段目以降: 取組指標                                                    | 2段目以降: 取組指標の達成状況の説明                                                                                             |    |                                                                        |
| ①    | 「地域や校外の方と関わる活動を通して、できることが増えた、考えが変わった、深まった」の生徒による肯定的評価90%以上     | 「地域や校外の方と関わる活動を通して、できることが増えた、考えが変わった、深まった」の生徒による肯定的評価は <b>82.7%</b> (28.0+54.7)で、前年度より下回り、目標値を達成できなかった。         | B  | ○学校外の方々、多様な立場の方々と接して学ぶことができたが、生徒は自分の考え方の変化や深化を感じる事が十分にできなかった。          |
|      | ・地域の商店街や近隣の高等学校の協力による職場体験や上級学校訪問の学習に向けて、マナーやファイナンス等の学習も行う。     | 職場体験やファイナンスパークやキャップスなどの取り組みは実施できた。                                                                              | B  | ○年齢や職業の異なる様々な方と交流する機会を通じて、自分の考え方や価値観を広げ豊かにする機会とさせたい。                   |
|      | ・幼児、高齢者、職業人等、様々な人と関わる中で、立場や価値観の違いなど、これまで気づかなかったことを学ぶ教育活動を推進する。 | 特養老人ホームへの訪問、赤ちゃんふれあい事業や保育園交流などが実施できた。                                                                           | B  |                                                                        |
| ②    | 「学校は学校生活について安全に関する呼びかけや対策をおこなっていると感じますか」の生徒による肯定的評価90%以上       | 「学校は学校生活について安全に関する呼びかけや対策をおこなっていると感じますか」の生徒による肯定的評価は <b>93.9%</b> (52.0+41.9)で、目標値を上回った。                        | A  | ○毎月の安全指導や避難訓練を通じて、日常や非常時の安全確保について、意識を高め行動を身に付けさせることができた。               |
|      | ・給食の食物アレルギーの確認を毎朝実施する。エピペン使用に関する教員の研修会を年1回実施する。                | エピペン使用に関する研修を、4月の始業前に実施できた。また、毎朝の食物アレルギーの確認も実施できた。                                                              | A  | ○食物アレルギー対策として、毎朝の給食内容の確認と、年度初めの教員によるエピペン使用の研修を行うことができた。                |
| ③    | 「学校は教育活動の様子を公開し、先生は生徒の手本となり行動することで信頼を得ている」の生徒による肯定的評価90%以上     | 「学校は教育活動の様子を公開し、先生は生徒の手本となり行動することで信頼を得ている」の生徒による肯定的評価は <b>83.1%</b> (55.1+32.0)で、前年度よりも下回り、目標値を達成できなかった。        | B  | ○生徒を指導・支援する立場として、教員は常に生徒の手本となる意識を持って行動するとともに、生徒の気持ちに寄り添えるように、より一層心がける。 |
|      | ・学校ホームページで、教育活動に関する情報の公開を促進する。また、教育活動に関する生徒の評価アンケートを実施する。      | 学校HPでは、学校、学年、保健、給食、コミュニティスクールなどの各便りを掲載。生徒への評価アンケートは年2回実施できた。                                                    | B  | ○教育活動の様子を伝えるために、学校ホームページへの情報掲載を促進する。                                   |
|      | ・教員による服務事故防止に向けた取り組みを行い、年間を通じた「服務事故0」を目指す。                     | 4月、5月、7月、12月、1月などの各学期の始めと終わりに、情報セキュリティ、性暴力防止、ハラスメント防止などの服務研修を実施できた。                                             | A  | ○信頼される学校と教職員であるために、服務事故防止に向けた研修を定期的実施し、法令順守の意識を高く持ち続けるようにする。           |

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成